令和７年度の教育活動等に対する学校評価書

令和８年４月１日

学校法人沼津音羽学園沼津あすなろ幼稚園　園　長　　髙村　克彦

同　　学校関係者評価委員会　委員長　　伊藤　麗羅

1　沼津あすなろ幼稚園の教育目標　　心の古里を作ろう

2　本年度の重点目標　　○自然に親しむ子　○創造性豊かな子　○思いやりのある子　○たくましさのある子

「 やさしい心を持ち、遊びの中で力をつける子　-あすなろ、楽しい！-」

3　自己評価に対する学校関係者評価

※評価は、A（十分に成果が上がった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）で表す

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
自然に親しむ子	園内の自然環境に進んでふれさせる	A	○春はダンゴムシをバケツいっぱいに集めたり、アゲハ蝶の幼虫を観察したり、夏はセミの抜け殻、秋は落ち葉探し、冬は霜を見つけたりした。 ○オクラの生長する姿を見て、はじめは保育者が水やりをするよう声をかけたが、子どもたちの中に少しずつ自ら水やりをする様子が見られるようになった。 ○土や落ち葉の陰からだんごむしを探したり、葉に止まっているてんとう虫を見つけたりした。 ○月刊本だけでなく、本物に触れることで、より身近に感じられたし、関心が深まった。 ○季節を感じながら苗を植えたり、収穫を喜ぶ姿、観察して想像する気持ちを表現できる姿につながっていた。	A	
	季節に応じた保育を通して自然の様子や変化に気付かせる	B	○ミニトマトやヒヤシンス、またその季節に育つ園庭の草花や野菜の生長を観察したり、発見したことを教えてくれる姿が見られた。 ○園庭を散歩しながら、子どもたちと季節の作物などを見て何ができているのか伝えたり、ニューサマーオレンジの変化に気づかせたりした。 ○花壇に植えてある花や園庭の野菜等の様子を見て、季節の変化を感じることができた。 ○季節の行事等、製作活動につねげて理解を深めたり、月刊絵本の特集にも興味を示し、気付くきっかけとなった。	B	
	子どもが見付けた自然の様子を保育に生かす	B	○子どもたちが見つけたアゲハ蝶の幼虫をクラスで観察し、さなぎから成虫になる様子を観察し、みんなで空に放つという貴重な体験ができた。 ○園庭で見つけたかたつむりをしばらく保育室で飼育し、きゅうりを食べる様子や排便する様子を観察した。 ○「土の塊があるよ」と霜柱を見つけたことを教えてくれ、踏むと音がすることを伝えて、一緒に感触を楽しんだ。	B	キンダーブックの付録のミニ図鑑を持って公園などにいけたらよい。
	自然を生かした遊びを活動に取り入れる	B	○夏にマジックで色水遊びをした後、朝顔の花で色水を作って遊んだ。秋は、用務員さんにドングリ駒を作ってもらい遊んだ。 ○ダンゴムシに触れることができるようになると、自らダンゴムシを捕ることに興味を示し。牛乳パックに捕っては入れることを楽しんでいた。 ○園外保育で拾ったどんぐりで、クリスマス飾り製作を楽しんだ。	A	
創造性豊かな子	運動会・発表会等の取り組みの中で個々の特性を見付け伸ばす	A	○昨年度まで人前に出ることが苦手だった子が多い学年だったが、運動会、発表会を通して自信がついたようで大きく成長するきっかけになれた。 ○生活発表会の遊戯で、意欲的な子どもたちに「リーダーになってね」等、負担にならないように役割分担を与えた。 ○ただ踊るだけでなく、掛け声や歌いながら踊ることで、意欲がわき、楽しく取り組むことにつながった。 ○努力の過程を想定しながら課題に取り組み、成長する姿が見られた。	A	運動に力を入れてもらっており、感謝している。
	子どもの発想を尊重したり引き出したりする保育をする	B	○運動会では子どもたちが遊戯の曲を決めたり、生活発表会では子どもたちの考えたセリフや踊りを取り入れたりして、意欲を高めることができた。 ○日常生活や主活動の中で、子どもたちがなにげなく発言した言葉に対してよいことをほめたり、もっとこうしたら等意欲的になるような声掛けをした。 ○子どもの発言を聞き、共感し、他の子どもたちにも意見を聞きながら、取り入れながら、保育をすることができた。	B	

	言葉の発達や言葉への関心を高めるような保育や環境作りをする	B	○毎日の当番活動の自己紹介や、誕生会・発表会で舞台の上で自己紹介やセリフを言ったりすることの繰り返しの体験が、言葉の発達に繋がってきた。 ○絵本の読み聞かせの中で、言葉の繰り返しを楽しんだり、登場人物の気持ち等を想像させ、そのイメージを子どもたちに聞いたりした。おとなしく自ら話すことがまだ苦手な子には、安心できるような言葉かけを試みた。 ○空いている時間に絵本の読み聞かせを行い、言葉を知る機会を作った。 ○言葉遊びや、インタビューで話す、絵本や掲示物、黒板、教材などで読む、学習や製作で書く機会を設けた。楽しく取り組み、関心が高まった。 ○文字を書きたいが分からない、難しいと感じる子には、あいうえお表を活用して書き順や形の理解へ促していった。	B	
	五感を使って遊んだり、ものを作ったり描いたりする楽しさをたくさん味わわせる	A	○粘土や折り紙、お絵かきの時間は多く取るようにしていた。五感を使っての遊びを意図的に考えなかったが、結果子どもたちが楽しんで遊んでいた。 ○壁面製作で絵具等を使用し、様々な技法で製作活動を存分に楽しんでいた。 ○子どもたちが大好きな絵の具を使った製作をたくさん取り入れ行った。野菜、トイレットペーパーの芯、段ボール等、身近なものでスタンプをして楽しむことができた。	A	
	体の動きや音楽的な表現を楽しむ機会や遊びを大切にする	B	○後ろや横走り、スキップなど、様々な体の動きを取り入れた運動遊びを行った。話の前に手遊びをしたり、表現遊びをしていた。 ○生活発表会の活動の中で歌を歌うとき、身体を動かしながら行うが、子どもたちが楽しめるよう保育者自身がわかりやすい動きと表情を心掛けた。 ○季節に合った手遊びを取り入れた。	A	
思いやりのある子	動物グループの活動を効果的に進める	A	○今年度は異年齢でのふれあいを楽しむより、個々で動物グループを楽しむ子が多かったが、グループとしてはとてもよい雰囲気だった。 ○はじめは各年齢の子どもたちが自分がどのように動いたらよいのかわからない子どもがいたので、保育者が個々の立場を考えさせ、活動を進めると、少しずつ動物-グループらしくなってきた。 ○年少児は年長中児にあこがれの気持ちを持っていて、優しく接してもらい、嬉しそうだった。年長中児はお兄さん、お姉さん-になろうと張り切る姿が見られ、よい関係だと感じた。 ○１クラスしかないため、動物グループで他学年の子と過ごす中で、良い刺激を受けられた。 ○縦割りグループの中で年下の子に優しくかかわり、リーダーとしての意識が強くなっていった。	A	異年齢同士の交流が盛んでよい。
	自由遊びの時間を通して、子ども同士がふれ合えるようにする	A	○集団で遊びことが好きなクラスだったので、毎日自由遊びの時間は友達と仲良く遊ぶ様子が見られた。 ○子どもたちがやりたいごっこ遊びを、保育者も参加し仲立ちとなり、みんなで楽しく遊んだ。 ○子ども同士で声を掛け合い、遊ぶ姿が見られるようになってきた。保育者と遊びたいという子どももいたが、他の子どもも誘い、一緒に遊ぶようにした。	A	
	学年の枠にとらわれない保育を意図的に取り入れる	B	○雲梯や鉄棒など、できない子に対して年長児に教えてもらえるよう促した。 ○子どもたちが年長中児がしていることにあこがれややってみたい気持ちでまねを始めたとき、援助した。鉄棒やフラフープなど ○年長中児が雲梯や鉄棒の練習をしている姿を見て、年少児もやってみたいと入っていくことがあった。一人では難しいが、保育者が手伝い一緒に行った。 ○動物グループとは別で、朝の体操後に一緒に遊んだり関わったりする中で、他クラスの友達を見てよい刺激を受けられた。	A	
	子どもが絵本好きになるように、時間を確保したり環境を整えたりする	A	○給食を食べ終えた後などは絵本を読む時間にしていた。保育者が読んだ本は黒板に立てかけ、その後も子どもたちが自由に手に取れるようにしていた。 ○お帰り時に読み聞かせができるよう時間を確保したり、長い時間の読み聞かせは座布団を使用するなど、落ち着いて聞けるように配慮した。 ○お帰りの前の時間を確保し、クスっと笑えるような本を意識して読み聞かせを行った。	A	
	協力や助け合いを引き出すような学級運営を心がける	A	○まずグループの中で声を掛け合ったり、協力することを促したことで、クラス全体に対しても、自分たちで考えて行動できるようになった。 ○日常生活の中で個々の子どもたちが良いことをしたときなど、周りの子どもに知らせたり、困っている子どもがいたらその場でどうしたらいいのか考えさせたりしてきた。 ○困っている子や泣いている子がいると、「どうしたの？」「大丈夫？」と声掛けする姿が見られた。保育者が助けてあげてほしいことを伝えると、行動に移すことができた。 ▲子ども同士で関わる時間をもっと設け、遊びや生活などの中から、まわりの友達に意識を向けられたらよかったと思う。	A	

たくましさのある子	遊びの中でも体力や体の動かし方が身に付くように配慮する	A	○綱引きやドッジボールなどの集団遊びを楽しんだり、鉄棒、雲梯等に毎日一回は挑戦するように声かけをした。 ○今年度はとにかく園庭で元気に遊ぶことが大好きなクラスだった。転がしドッジボール、しっぽとりゲーム、リレーには積極的で、体力をつけるきっかけになっている。 ○鉄棒が苦手な子どもにここに取り組む時間を作り、自信につなげた。	A	
	カードを利用するなどして、目標をもちやすくしたり、自ら運動しようとする意欲を高めたりする	B	○運動カードに挑戦することで、運動に苦手意識があった子が自ら頑張ろうとする姿が見られた。 ○年少なのでカードはなかったが、年長中児がやっている姿を見て、鉄棒やのぼり棒にチャレンジする子どももいた。	A	年少の運動カードがあってもよいと思う。
	いろいろな運動遊びを紹介する	B	○運動カードが終了した子はチャンピオンカードに挑戦し、様々な運動遊びに取り組む機会を作った。 ○跳び箱やマット運動等、初めて行う運動遊びでは、やってみたいという気持ちが大きかったようで、意欲的に取り組んでいた。 ▲鉄棒（ぶたのまるやき）、総合遊具（いわのぼり）など、できることは積極的に行っていたが、難しいことにはまだ気が向かなかったようだ。もう少し意欲を持たせたかった。	B	
	食に関心をもたせ、マナーやバランスのよい食事にも配慮する	B	○進級当初は好き嫌いが多く、食に対して関心の薄いクラスだったが、一年を通して苦手な食べ物を克服したり、完食する子が多くなった。 ○偏食の多い子供は一口でも食べたら褒め、自信を持たせ、次につながるようにし、マナーに関してはクラスを半分に分けて食事をすることで、「保育者の目が行き届くよう配慮した。 ○一人一人に合わせた食事量にした。苦手な食材は、一口は食べてみようと励ましながら援助した。 ○偏食や好き嫌いのある子に対して、「食べてみよう」と意欲が持てるよう声掛けを工夫した。改善は見られたが、食育の必要性を感じた。 ▲食事のマナーの指導や食育を園だけで行うのは難しい。家庭との連携や協力が必要だと感じた。昨年よりは食べることの楽しさなどは感じられる子が増えたのはよかった。	B	
	友達が少ない子や、孤立しがちな子の支援を心がける	A	○まずは担任と楽しく遊んだり、仲良く過ごすことで安心して過ごせる環境づくりをした。気の合いそうな子を見つけ、一緒のグループにしてみた。 ○常に声をかけるようにし、仲良くできそうな子供たちに一緒に遊ぶよう声をかけた。また、友達が少ない子供たちとスキンシップを心掛けた。 ○保育者が気にかけ、一緒にいるようにしたり、仲良くできそうな子に「一緒に遊んであげて」等、関りが持てるよう支援した。 ○満たされない思いや興味のあることを会話の中から探り、スキンシップや個別で関わり、少しずつ関係作りができた。	A	
	継続して運動に取り組むような工夫をする	A	○運動カードや縄跳びカードにとらわれすぎず、曜日を決めて行うことで意欲を持続させて運動遊びを楽しみながら取り組むことができた。 ○年少なので無理しないよう、好きな遊びの時間にここに鉄棒（ぶたのまるやき）を一緒に行い、「上手だね」「あと少しだね」等意欲的な声掛けをした。 ○鉄棒や岩のぼり等、全員が無理なくできることを行った。 ○目標を明確にしたり、達成しやすく設定し、何度もやってみようとする姿が見られた。	A	

令和７年度に向けての改善策	上記以外の意見（抜粋）
☆本園の大きな強みとして、運動面の取組の充実が挙げられる。保護者から強い支持を得ており、今後も継続して進めていきたい。 ☆重点目標の表現を育てたい子どもの姿で具体化したことで、幼稚園として目指す方向性が明確化、統一化されたと感じる。来年度も継続したい。 ☆食育に関する進め方に苦慮した。学年によって成果にばらつきがあった。保護者の理解・協力が不可欠であり、啓発を図っていきたい。 ☆園児数の減少により、園の経営はこれまで以上に効率化を図らなければならない。一方で、園としての目標・目的を見失うことなく、保護者の要請に応えることのできる園であることを目指していく。	・自然に親しむ取組はあすなろ幼稚園の良さである。園内だけでなく、公園などにも出かけて自然と触れ合う機会を増やしてほしい。 ・保護者に伝達すべき内容は、迅速に説明をお願いしたい。伝達方法にも工夫がほしい。メールではなく、アプリを導入するなど。 ・こども園への移行は考えていないか。 ・園庭開放を行っていることを、未就園の子を持つ保護者に伝えたい。